

2011.9.3

NO.41

長崎市平野町7-8

# 継承部会 つうしん

長崎平和推進協会

継承部会

編集・発行 広報班

## 平成 23 年度(2011 年度)役員を紹介と抱負

中川知昭会長、城臺美弥子、廣瀬方人両副会長

会計・原田美智子さん、監査・安井幸子さん、八木道子さん

8月3日の総会で、空席だった副会長がようやく決定して今年度の三役がそろいました。すでに中川会長と城臺副会長は、入院中の前濱崎均会長や前会計の渡邊司さんを病院に見舞うなど活動しておられます。事業班の活動では、「交流班」がピースネットを通じた体験講話を7回、そして出前講座として、県営バス新入バスガイドと青少年ピースボランティアへの被爆体験講話を行いました。総会では各事業班の活動計画が報告され、最後に秋期の被爆体験講話の分担を決定しました。

### 中川知昭新会長のことば

『つうしん』に載せるため、継承部会長に就任しての抱負を！」と依頼されましたが、正直なところ、私は一継承部会員としてやっと3年目の夏を迎えたばかりの新参部員であり、選挙で繰り上げになっての部会長で抱負らしきものもないままお引き受けしました。



副会長1名不足のなか8月の総会で廣瀬方人副部会長にお願いしてやっと就任していただくことになりほっと一息ついたところです。

新会長の任務としては、まず先輩の会員の方々が御自分の悲惨な負の体験から立ち上がり、核兵器廃絶なくして地球の未来なしと世界に向けて発信してこられた業績を引き継ぐこと、そして会員の方々が被爆の体験を語り継いでいくための環境作りのお手伝いをするのが第一だと思っています。

今年3月11日の東日本大震災とそれに続く福島第1原子力発電所の事故は「原発は兵器ではなく、平和産業であり、安全である」という神話を脆くも打ち砕いてしまいました。あれから5ヶ月が過ぎたのにまだ収束の兆しが見えません。現在も解き放たれた放射能の被害が続いています。このような危険な状態にあって、果たして原発を存続させてよいものだろうかという疑問、さらには継承部会員が70歳を超える今、今後を見据えて継承部会の存続のための部会員をどうするかという問題、これら大きな問題を抱えている現在、全ての会員と平和推進協会事務局の皆さんの衆知を集めて問題解決を図らなければならないと思うとき責任の重さを痛感します。どうぞ、皆様のご協力をお願いします。皆様のご健勝を祈りつつ。



# 平成23年度 事業班の活動計画

## 【ピーストーク研修班】 班長 濱崎 均さん

### ①海外活動報告

発表者の日程の都合で9月11日以降に行う

末永 浩さん：ピースボート乗船報告

計屋道夫さん：タイ・チェンマイにおける活動報告

### ②ピーストーク NO.9 の改定

### ③ピーストーク NO.8 以降の入会者の体験を記録する

### ④「原発Q&A」の作成（今後の体験講話で原発についての質問があると思われるので、基礎的な問題についての想定問答集）

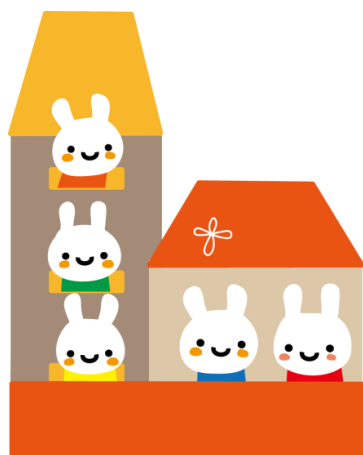
### ⑤平和案内人との交流懇談会

## 【後継者育成班】 班長 池田 道明さん

資料作成支援班に代わる活動として継承部会員の後継者育成のために出口さんが立ち上げたものであるが、出口さんの入院で困惑している。総会の席上、後継者育成については継承部会全体の問題として取り上げる課題であるとの発言があった。これに関しては今後、総会で検討されることを期待している

## 【児童図書研修班】 班長 末永 浩さん

検討中



## 【慰霊碑巡り班】 班長 池田 早苗さん

市民を対象とした碑巡りを実施するため、コース等の話し合いを行い、実際に下見をしながら歩いてみる。下見をした後、検討を重ねて資料を作成する。年2回計画し第1回は10月16日（日）穴弘法寺とその周辺を巡る予定である（詳細は別掲）

第2回は来年2月、住吉トンネル、西浦上中学付近の予定。

## 【碑研修班】

班長 渡辺 司さん（報告・深堀 譲治さん）

室園さんが残された原爆関係の資料を基に、今年は永井桜の調査を行う予定である。すでに浦上天主堂と山里小学校は調査を終わった。

## 【軍縮週間市民の集い班】

班長 下平 作江さん

10月24日の国連デーに行われる平和行進に合わせて、原爆資料館下の広場で、戦時食コーナー、折鶴コーナーなどの活動を行う。

## 【広報班】 班長 廣瀬 方人さん

今年は部会の活動が出遅れたこともあり、第41号～43号の3回の「つうしん」発行を目指す。41号は9月初旬発行の予定。

## 【交流班】 班長 丸田 和男さん

すでに7回のピースネットによる交流を行った。五島三井楽小学校、五島栴島小・中学校、大阪、福江、稚内など。

（出前講座）

県営バス新入バスガイドさんに講話：山脇さん。

青少年ピースボランティアへの講話：

# 東日本大震災に伴う福島原発事故に対する アンケート分析と結果

40人中32人からの回答を得た。80%の回収率であった。普通はアンケートでは義務的に済まされることが多いのに、自由記述も書き加えられていて、福島原発事故に対する皆さんの関心の高さをうかがわせる結果であった。他人事ではないという気持ちが伝わって来た。「若かったらじっとしていないのに！」という被災者への共感の気持ちが伝わってきた。

さまざまな意見があるが、皆、福島に被曝者に心を寄せ心配していることが自由記述の文面から感じ取られる。原発エネルギーへの依存から脱却すべきだという意見がほとんどであるが、代替エネルギーが保障される必要を唱える慎重論もある。また、「原発の安全神話にだまされた」という意見が多かったが、だまされた自分たちの側の反省はあまり見受けられない。

また、「これから何をしたらいいか」（質問9）に対して、「学習会を開く」が50%を越え、放射能や原発についての知識が不足だったからもっと学習したいという皆さんの学習意欲が感じられる。また、「原発廃止の運動を起こす」という回答も60%に近く、被爆者の原発反対の強い気持ちが感じられる。

## 質問1 回収率 40名中 32名 80% (男子 21名。女子 5名。不明 6名)

### 質問2 津波で壊滅した地域がテレビに映し出されるのを見た時どう思いましたか

- 1 原爆投下後の廃墟になった浦上地区の光景を連想した (87.5%)
- 2 原爆より津波の方が恐ろしいと思った (0%)
- 3 その他 (12.5%)
  - \* 原爆の方がもっと怖ろしい
  - \* 原爆は津波よりもっと怖ろしい。全てを焼き尽くすのだ
  - \* 自然の力はすごい
  - \* 津波にしろ、原発事故にしろ天を恐れぬ人間の思い上がりに対する警鐘を感じた
  - \* 原爆時の悲惨さとはちょっと違う

### 質問3 原子力発電所の安全性についてはどのように思っていましたか

- 1 絶対に事故は起こらないと思っていた (15.6%)
- 2 事故が起こるかもしれないと心配だった (78.1%)
- 3 なんとも思っていなかった (関心がなかった) (6.3%)
  - \* 原発は生きた化け物だから事故が起きたらおしまい。もう2度と美しい地にはならない
  - \* こんなに早く事故が現実起ころうとは思ってもいなかった

### 質問4 福島原発の事故のニュースを見てどのように感じていますか

- 1 政府や関係者の「原発は安心・安全だ」というのはウソだった、だまされたと感じる (84.4%)

- 2 想定外の大地震・大津波による事故だから仕方がなかったと思う (9. 4%)
- 3 その他 (15. 6%)
  - \* 事故を考えない原発に最初から安全はないはず。
  - \* ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ そしてフクシマだと感じる
  - \* 安全神話を信じていなかったのが騙されたとは思っていない。核はどんな理由でも人間が手にするべきではない
  - \* 1986 年に起こった地球規模の被爆を招いたチェルノブイリの事故を思い起こした。核と人間の将来を考える機会にしたいものだ。ヒロシマ・ナガサキの教訓を記憶から消してはいけない

**質問5 政府は200万人の福島県民全員の放射能による汚染を調べようとしています、それをどう思いますか**

- 1 全員の検査をするべきだと思う (71. 9%)
- 2 費用と時間の無駄だから全員にする必要はないと思う (9. 3%)
- 3 わからない (0%)
- 4 その他 (15. 6%)
  - \* 元気な時は放射能の恐ろしさを忘れている
  - \* 放射能は目に見えないから消えたように思われるが、体調が悪くなった時にはその原因がわからぬまま、ひとり苦しみながら死んでいく。
  - \* 継続的に、対象を変えて、サンプル検査を続けるべきだ
  - \* 私たちが被爆したとき汚染調査は一度もなかった
  - \* 県民の放射能汚染調査と同時に土地の汚染調査も続けるべきだ
  - \* 被爆者手帳に準じるものを発行すべきだ
  - \* 全員の検査は必要ない。小学生以下はやった方がよい
  - \* 検査の結果、数値の高い人にどのような処置がされるのか何も知らされていない事に不満が残る。数値も生物学的に妥当なものか不確定。

**質問6 放射能による汚染について不安に思っている県民に対して国や自治体は何をするべきだと思いますか**

- 1 被曝者手帳を交付して今後長期にわたる検査を実施するべきである (59. 4%)
- 2 被曝線量は少ないと聞いているから、手帳の交付などは必要ないと思う (12. 5%)
- 3 その他 (28. 1%)
  - \* 情報の全てを速やかに公開すること。保証制度を確立すること。原発の新たな建設の中止と今の原発の廃止を明確にすること
  - \* 広島、長崎の放射線治療の専門家を常駐させて適切なアドバイスや治療をしてあげるのがいい
  - \* しっかり検査をして、手帳交付の要、不要を判断すべきだ
  - \* 被曝者を対象に手帳を交付したらいい
  - \* 一定量以上の被曝者には手帳を交付する

- \* 放射能の知識が十分でないのでその啓蒙に努めなければならない。  
原発に対する隠蔽体質を改善しないと国民の信頼を得ることは出来ない

**質問7 静岡県御前崎の浜岡原発の運転中止を政府が要請したことをどう思いますか**

- 1 停止は妥当な処置である (84.4%)
- 2 浜岡原発だけ停止する意味がわからない (12.5%)
- 3 電力が不足するといわれている中で停止するべきではなかった (0%)
- 4 その他 (0%)

**質問8 日本の今後の核エネルギー政策について(複数回答可)**

- 1 原子力発電所の安全を強化した上で現在までの政策を推進する (6.3%)
- 2 太陽光、風力、地熱など自然エネルギーを開発して原発の廃止を目指す (93.8%)
- 3 地震や津波がいつ来るかわからないから原発は直ちに停止して廃炉にする (31.3%)
- 4 わからない (0%)
- 5 その他 (12.5%)

- \* 太陽光は無限にあるから、その有効活用法を研究実施する
- \* 震災による国力の低下を回復するためには経済浮揚も必要なので、即時全ての原発の停止は無理。安全確認をしながら徐々に自然エネルギーに転換する
- \* 玄海原発などは40年も使用しているので原子炉の金属疲労などもあると思われる。自然災害はないかもしれないが、そのような原子炉でプルトニウムを使うのは非常に危険だと思う。直ちに廃炉にするべきだ。
- \* 時が経つと事故の実態が隠され、報道も小さくなり、国民がまた騙されることになれば、次に事故が起こったときにはもう逃げ場がない。国民は皆、死を覚悟しなければならない

**質問9 被爆者としてこれから私たちは何をしたらよいと思いますか(複数回答可)**

- 1 原発についての学習会を開く (50.0%)
- 2 福島県の被爆者との連帯のために会員を派遣する (18.9%)
- 3 原発の廃止のための運動を起す (59.4%)
- 4 わからない (0%)

**質問10 放射能を浴びたことを不安に思っている人をどう思いますか**

- 1 原爆に較べたら大したことではないから心配しないでもいい (6.3%)
- 2 放射能の被害は少しであっても将来大変なことになるから継続的に診察を受ける (78.1%)
- 3 その他 (15.6%)
  - \* 汚染されたことがはっきりしている人には継続して検査をする
  - \* 希望する人には検査をし、相談によって不安を解消する
  - \* 小学生以下の子供たちは今後継続的に定期健診をするべきだ

## ●自由記述:大震災・福島原発事故についてご自由に書いてください

(復興・復旧について。救援のあり方。保証の方法。放射能による汚染の処置など。)

01. 我が国は唯一の被爆国でありながら、原子力のもたらす功罪について国民への教育を怠ってきた。21世紀は、核兵器廃絶を目指すのは当然としながら、原子力エネルギーの利用の結果発生する放射能、放射性物質の飛散、使用済み核燃料の廃棄の問題をなおざりにしている。学校教育のあり方、一般市民への知識の普及など真剣に見直すべき時に来ていると思う。
02. 現在、稲わらからも放射能が検出されたとの報道がある。福島県民の放射線に対する不安を解消するために、放射線量の測定器を全世界帯に無料配布したらどうか
03. 順次、廃炉の手続きに入るべきだ。自然災害はいつ起きてもおかしくないのだから。
04. 直ちに原発の廃止出来ないと思うので、20年くらいの期間で少しずつ減らしていくべきです。人間が開発した核エネルギー、全く安全とは言えない。
05. 大災害の様子をテレビで見たとき、66年前の8月9日を思い出して胸がいっぱいになり、3日間は食事も進まなかった。被災者の人たちを慰めたいと思った。私をもっと若くて近かったらとも思いました。
06. 1945年の広島・長崎、1954年の第五福竜丸の被曝などの被害で、核廃絶のリーダーを自認していた日本が、人災と言われる原発事故を起した。人間の予知能力・管理能力を超えた巨大なシステムの原発事故処理にことごとく失敗し、東電・原子力安全委員会・政府も隠蔽に終始し、世界中の輿論をかっかたことを恥じています。
07. 3月の原発の事故後、何一つ良いニュースはない。産業も観光も落ち目、外国の客船もアジアからの観光客も来日を中止し、おまけに円高となり、悪いニュースばかり続きます。
08. チェルノブイリでは近隣の被曝地域で廃村になっている所が各所にあるが、日本もそうなる可能性があり、狭い日本で今後どうなるのか心配でならない。日本沈没という感じである。
09. 今回の原発事故で大騒ぎしている様子を見て、逆に66年前に被曝した私たちは、放射能についていかに無知、無防備であったかを痛感させられた。
10. 広島・長崎の被爆者と福島原発事故の人たちとは違うと思うので、そのところは、はっきりさせなければならないと思います。
11. 福島原発事故で原発で働く作業員の皆さんが放射能で汚染されています。それにも拘ら、昼夜を分かたず修復作業に取り組んでいます。会社や国はそれらの作業員の健康や安全に配慮していないように思えます。
12. 政府発表では、原発事故は終息に向かっている、すぐにでも故郷に戻れるような発表をしている(7.17)が、原爆よりも汚い放射能がまだ出続けていたり、草木や土壌、水(海水)までも汚染されている自然破壊、80キロ地点の牛が汚染された牧草を食べて牛肉から放射能が検出されているという事実をどう考えたらいいのだろうか。こんなに広範囲に複雑に汚染されてしまった東日本、これ以上他の原発が事故を起したら、日本列島は核で汚染されて、もう住めなくなるかもしれない。早く原発を廃炉にするための運動をしていきたい。

13. 政府が力を入れて事故の調査を行い、復旧、復興、救援に全力を挙げて努力すべきである。
14. 大震災、津波の対応策を根本的に見直し、日本列島の活断層、プレートの徹底調査と観測の重視。福島原発の事故は東京電力が第一義的に責任を取り、政府は電力供給のあり方を根本的に見直すこと
15. 原発事故の収束が未だに解決されないまま、セシウムによる汚染地区が拡大していく中、該当地区の住民の苦悩と不安は計り知れない。政府は原発問題を最優先課題として取り組み、住民に安心と安全を与える諸政策を推進して欲しい。
16. 「想定外」という逃げ道を作って、「原発は危険だ」と指摘してきたまともな意見を排除してきた歴代の政府や東電の傲慢さは許されない。
17. 地震、津波、それに起因する福島原発事故は、自然災害のたぐい。しかし、原爆は明らかな人災だ。日本が戦争をしなかったら私たちは原爆には遭っていないのだ。原爆は殺人兵器にはかならない。これこそ直ちに廃棄すべきだ。核兵器廃絶を声高らかに世界に向かって叫ぶべきだ。これが世界で唯一の被爆国日本の責務だ。
18. 地震国で狭い国土である日本に、54基もの原発が存在していること自体が誤りである。今後は太陽光・風力・地熱など原子力以外のエネルギーを利用した発電を研究して実用化する。原発は段階的に廃止の方向にもっていくことが望ましい。
19. 原子力発電所で働いている人たちは大丈夫かしら？と以前から思っていました。それが現実となってしまいました。
20. 世界で最高の地震地盤の上に日本列島があり、そこに原発が 54 基もあることを再確認した。今後もいつ不測の地震や津波が起こるかわからない。原発は即時廃止に向かっても今後何十年もかかるのだから、今からでも遅すぎるのだ。でもやる必要がある。自然エネルギーの研究には多額の補助金を出すべきだ。「買い取り法案」は成立したけれども、買い取り価格を保証して自然エネルギーの開発、発展を促進するべきだ。発電と送電の会社を分離するなど、自然エネルギーの利用に移行しやすい条件を法的に保証していくべきだ。
21. 原子力発電の「原子の火」が日本で初めてともったのは 1957 年のことだ。当時私は学生。新聞トップに報道され、マスコミは「原子の火」をこぞって報道したというのが私の記憶にはない。テレビはまだわが家にはなかったし、街にもそれほど普及していなかった。新婚の我が家にも電化製品が冷蔵庫、洗濯機とひとつずつ増えていった。「原子の火」から 10 年間で大量の電気を消費するまことに便利な暮らしになっていったのかと思う。“効率の良さ”と“豊かな気分”に満足感を抱き、「安全神話」が知らず知らずのうちに私の体に沁み込み感わされていったのだろうか。  
退職後ここ数年、語り部として「核兵器は要らない」「地球上から核兵器がゼロになるように」「核兵器と人間は共存できない」と子ども達に語りかけてきた。一方、原子力発電についてはどう語ってきたのか……。いま、原子力発電所が日本国内に 54 基もあるとは正直言って知らなかった。東日本大震災・津波・フクシマ原発事故の甚大な被害が、私の脳裏には「ナガサキ原爆の惨状と重なり悔しく辛い。原子力の平和利用なんて金輪際口にも出来ない。

私たちの暮らしの中では、隠し事やウソをつくことは悪徳であり、決して許されない行為である。相手に危害や損害を与えるならば犯罪として厳しく処せられる。しかるに、国家権力の元に国策として推進され、挙句の果てに甚大な被害を引き起こした「フクシマ原発」事故は、ことの始まりからことごとく「隠蔽」と「騙し」で固められた「原子力村」の実態をさらけ出した。電力各社の「やらせ問題」は原発を規制する原子力安全・保安院までが関与していた事実が発覚し、原子力に絡むどす黒い癒着の実相が明らかになった。原発推進関係者の責任は重大であり、厳しく糾弾されるべきである。私たちは、核エネルギー、高速増殖炉、核融合炉、核燃料サイクル施設、プルサーマル、再生エネルギーなどについて、知識を深める学習に取り組む必要に迫られている。民主社会においては、なによりもあらゆる情報の速やかな公開がなされなければならないと痛感した。(八木道子記)

訃報

渡邊 司さん(享年七十九歳)

前会計の渡邊司さんが八月三十一日  
亡くなられました。

渡邊さんは十三歳の時に被爆。一九九  
四年に継承部会に入会。

話すだけでは「臨場感がない」と学生  
時代から続けていた演劇を取り入れた一  
人芝居を始め、原爆の脅威と平和の尊さ  
を独自の表現で訴え続けられました。

御通夜九月一日午後七時から。葬儀九  
月二日午後一時から。

いずれも光町メモリアルホールで  
行われました。

謹んでお悔やみ申し上げます。



原爆遺跡・碑めぐりを行います！

- ◆日 時 : 10月16日(日) 10時~12時
- ◇集合場所 : 天主公園(浦上天主堂下の公園)
- ◆コース : 天主公園—坂本町原爆記念碑—穴弘法寺—  
原爆殉難者供養地蔵尊(奥之院)—平和観音像(霊泉時)

